



「SSH米国（グアム）海外研修」を開催しました

将来、国際的に活躍し得る科学技術人材の育成のための取組の一つとして、自然科学分野における英語コミュニケーション能力と国際感覚を育成し、「英語による課題研究発表会」に向けての学習活動のリーダーとなる生徒を育成することを目的として、「SSH米国（グアム）海外研修」を実施しました。理数科2年生10人が、事前学習の上、1月7～10日の日程で、グアム大学での研修に取り組みました。



研修では、「SSH研究Ⅱ」で取り組んでいる課題研究についての英語プレゼンテーション、グアム大学の学生による研究についてのプレゼンテーション聴講、「科学技術を平和や福祉にどう生かすか？」をテーマとしたディスカッション、有明海沿岸における水質環境についての英語での説明、グアムにおけるサンゴ礁の保全活動等についてのレクチャー受講、グアムの植生や海洋環境の保全についてのフィールドワークに取り組みました。

参加者の感想

- 「住む場所が違い、話す言葉が違う等、大きな壁を感じていたが、話しているうちに私と同じ考えや思いを持っていて、とても身近なのだと気付いた。実際に行ってみて交流してみないと分からないことが多いと感じた。」
- 「世界で働く科学者には、地域の文化等も理解した上で、ひとつの問題に対しても多くの観点から考えることが大切だと思った。」
- 「今回の研修で、英語でのコミュニケーションや国際的な視点から問題解決に取り組むことの重要性を実感しました。」
- 「表や写真を指しながら、相手に伝わるように意識して発表した。大学生がうなずいたとき、「伝わったんだ！」と思えて嬉しかった。」

本研修参加者は、2月の「SSH研究Ⅱ」の授業で、各分野で英語による模範発表を行ったり、資料「英語発表資料作成及び英語プレゼンのポイント」を自分達で作成して配布したりする等、次年度の「英語による課題研究発表会」に向けての学習活動に率先して取り組みます。理数科2年生の皆さんが互いに協力してよりよい学習活動とすることを期待しています。